

「勝野金政日本生還前後・15年戦争 略年表」

黒・日本・国際情勢

茶・勝野金政関連

紫・参謀本部・第8課関連

青・資料・文献

作成 稲田 明子

年月日	日本・国際情勢	勝野金政の動き	参謀本部第五課・八課関連 ソヴィエト研究所・九段事務所 東方社 淡路町事務所 駿河台技術研究所・駿河分室の動き	参考資料・文献
1928年（昭3）		早稲田在学中関東大震災を機に島崎藤村に続こうとパリへ 1924年秋よりパリ大政治経済・医科在学中フランス共産党員に 井上房一郎再会 芹沢光治良パリ大で知り合う ‘28.2月パリ追放されベルリン経由3月モスクワへ潜入、 片山潜のもと東方学院教師、執筆活動、ソ連国籍、党員取得		勝野金政『凍土地帯―スターリン粛清下での強制収容所体験―』吾妻書房 昭和52年 加藤哲郎『モスクワで粛清された日本人』青木書店 1994 加藤哲郎 『国境を越えるユートピア』平凡社 2002 勝本清一郎『こころの遠近』朝日新聞社 昭和40年 岸本英太郎渡辺春男小山弘『片山潜』第2部 未来社 1960 加藤哲郎教授収集： 外務省外構資料館所蔵 「外国旅行券下付表一件 欧州ノ部 第五八五号 昭和九年七月十日 「日本共産党関係雑件 警視庁ニ於ケル共産党事件被告人調書 昭和四年九月二十八日 「佐野学調書」林・勝野について供述
30年（昭5） 31.9	ロンドン会議 満州事変	『戦旗』3月号寄稿「ソヴィエト通信・同志片山の生誕70周年祝賀会」 10.13 GPUに逮捕 有罪判決・第58条6項 5年間強制労働 シベリヤマリンスキーラーゲリで知る		五来欣造『現代』七月号「時の話題・統帥権問題」昭和5年 大日本雄弁会講談社―統帥権の独立に反対表明
‘32.5（昭7） 32..3	斎藤実内閣（挙国一致内閣） 満州国建国宣言	不当逮捕抗議判決否認再審申請継続 白海運河建設ラーゲリで事故入院機に医師助手に。		
33.（昭8）.3	日本国際連盟脱退 ヒットラー首相、ルーズベルト大統領就任			加藤哲郎『ゾルゲ事件』隠された神話 平凡社 2014
.9 .11	ゾルゲ横浜上陸 アメリカ、ソ連承認	.3 プルノ・タウト来日・高崎井上房一郎のもとに（～‘11.10）ミラテスでタウト作品販売		水原徳言手記『ミラテス時代』
34（昭9）.9	ソ連国際連盟加入	6月 勝野白海ラーゲリより減刑釈放 7月モスクワ日本大使館へ出頭、 保護され（※満州里領事田中文一郎・一等書記官酒匂秀一）出国交渉成功 8月10年ぶり日本生還 10月末まで収監 井上房一郎と再会 ミラテス銀座店手伝う		加藤哲郎教授収集： 国立公文書館アジア歴史資料センター 外務省 「第三章 コミンテルン関係諸問題」 三項 勝野金政 昭和9年 7月11.12日 廣田外務大臣宛 莫斯科本省大田大使 「在外本邦人保護並取締関係雑件」極秘電信二通 『朝日新聞』8月1日 8月12日 『東京日日新聞』8月1日 明治百年史叢書98『日露交渉史』外務省編 原書房（昭和19年田中文一郎初編纂復刻） 白石仁章『戦争と外交官 杉原千畝たちの時代』角川選書 平成27年
.11	アイノ・クーシネン横浜上陸。 （ハンソン・イングリッド）	.10『故片山潜秘書・勝野金政手記・ソ連脱出記』日露通信社出版部（露訳GPU公文書館） .11『赤露脱出記』日本評論社 『思想月報』第5号 司法省刑事局		
35（昭10）		「ソヴィエト露国の国内事情について-勝野金政上申書」 昭和九年十一月 第五号 司法省刑事局 『経済往来』11月号「赤露脱出記・片山潜と私」『経済往来』12月号「赤露脱出記-ウラルの旅」 『改造』11月号「ソヴィエトの裏面を観る」 『ソヴィエトロシアの今日の生活』千倉書房 『月刊シア』7月号 座談会「モスクワの今昔を語る」 『月刊ロシヤ』8月号「ラデック氏に与ふ」月刊ロシヤ』9月号「ミンテルン大会を中心にして」 『月刊ロシヤ』11月号「コーカサス夜話」		
36（昭11）.2	キーロフ暗殺・スターリン粛清始まる 2.26事件 広田弘毅内閣	『月刊ロシヤ』11月号 「エレナと小五郎」 『蘇聯邦要覧』1936年版「全聯邦共産党」日蘇通信社		

37.8	第5課新設 (通称ロシア課)	『セルパン』11月号 「ソヴィエトのコムソモール」 『月刊ロシヤ』11月号「ソヴィエトにおける支那人」 『二十世紀の黎明』第一書房 11月 『日露年鑑』36年度版 日蘇通信社 「全連邦共産党」、「コミンテルン」監修	
11	日独防共協定		五来欣造『儒教のドイツ政治思想に及ぼせる影響』1930 早稲田大学出版部
.12	ソ連新憲法制定 (スターリン憲法) 制定		五来欣造『人間 大隈重信』早稲田大学出版部 1937 森田信子『五来欣造伝 大隈重信に仕えた国際ジャーナリストの生涯』 五来文庫 2014 アグネス・スメドレイ寄稿 『文芸』8月号 「馬」
37.6 (昭12)	第1次近衛文麿内閣成立	『文芸』8月号 「モスクワ」 『ソヴィエト滞在記』千倉書房	
.7	盧溝橋事件 日支事変ー日中戦争へ	『セルパン』8月号「ソヴィエト新憲法について」 解説	
.9	第2次国共合作成立		
.11	大本営設置 日独伊防共協定	.10 勝野、土居明夫大本営参謀本部第5課長に招聘囑託	
.12	日本軍南京占領 アイノ・クーシネン、モスクワへ召喚	第八課新設され八課へ	アイノ・クーシネン『革命の随天使たち』 平凡社 1992 加藤哲郎『国境を越えるユートピア 国民國家のエルゴロジ』平凡社 1994 ルート・フォン・マイエンブルグ 大島かおり訳『ホテル・ルックス』晶文社 1985 リュシコフ事件 7月2日 読売新聞、朝日新聞、東京日日新聞、朝日・号外『手記』 リュシコフ寄稿『改造』昭和145月号、7月号、12月号 西野達吉『謎の亡命者リュシコフ』 三一書房 1979 山本武利『日本のインテリジェンス工作 陸軍中野学校、731部隊、小野寺信 』新曜社 2016 山本武利『陸軍中野学校「秘密工作員」養成機関の実像』 筑摩書房 2017 ソヴィエト研究所・九段事務所開設ー対ソ戦宣伝謀略企画立案 (拠点母体) 勝野金政 馬場秀雄 (東京日日新聞社) 高谷覚蔵 (元日共黨員・モスクワ在10年) 原善一郎 (コロンビア文芸部長 近衛兄弟側近) 岡田桑三 (元俳優・映像クリエイター) 吉村柳里 (ニコライ堂宣教師・翻訳家 後より ゲンリッヒ・リュシコフ (ソ連亡命者・極東 GPU 三等長官) 中田光男 (8課特務機関要員 ‘43.10月徴兵黒河砲兵第一連隊 ‘44.2ハルピン特務機関)
38 (昭13)	国家総動員法公布	『コミンテルンの歴史と現勢』千倉書房 (発禁)・非売品として昭徳会発行 再発行	高谷覚三『ロシヤ共産党の実情と其の極東政策』日本外交協会1937 『コミンテルンは挑戦する』大東出版社1937 小池新 『スターリン信 頼の幹部による謎の亡命事件』 文春オンライン 井口淳子『亡命者たちの上海楽団』音楽の友社 2019
.6.13	リュシコフソ連極東長官亡命		
.4	中野学校開校		
.7	張鼓峰事件		
.11	東亜新秩序声明		
.12	近衛三原則声明	『青年』9月号座談会「ソヴィエトロシアを解剖する座談会」 出席者 加藤一郎 陸軍砲兵少尉 直井武夫 企画院調査部 丸山政男 朝日新聞編集局 富士辰馬 外務省調査 勝野金政 ロシヤ研究者	
39. (昭14)	1 日本軍重慶爆撃開始 平沼騏一郎内閣成立		
.5ー.9	ノモンハン事件 (ゾルゲスパイ団情報蒐集)	『滅共読本』共著 政治学博士・五来欣造 「ソ連の実相」執筆 勝野金政 国際反共連盟発行	加藤哲郎『情報線と現代史 日本国憲法へのもうひとつの道』花伝社 2007
.7	日米通商航海条約破棄		岩城成幸『ノモンハン事件の巨像と実像』彩流社 2013 北川四郎『ノモンハン元満州外交官の証言』中公文庫プレミアム 2015
.8.7	国民徴用令公布 独ソ不可侵条約締結 阿部信行内閣成立 (陸軍大将)		
.9.1	ドイツ、ポーランド侵攻 第2次世界大戦始まる		五来欣造『儒教の独逸政治思想に及ぼせる影響』早稲田出版部 昭和4年 五来欣造『人間大隈重信』早稲田出版 昭和13年
40.1 (昭15)	米内光政内閣成立 (海軍大将)		
.3	汪兆銘政権樹立	.3 勝野・五来欣造長女光子と結婚 軍人会館挙式 媒酌人山岡道武ロシア課長	熊倉浩靖『井上房一郎・人と功績』 みやま文庫 平成23年
.6	ドイツ、パリ占領	親族記念写真に 井上房一郎夫妻 岡田桑三、原善一郎	山岡道武『マレンコフの政権』大蔵出版 1953
.7	第2次近衛文麿内閣 トロッキー暗殺		
	大本営政府連絡会議、南進決		11月8課課長白井茂樹、第5課課長、山岡道武、小野寺信中佐等からソ連『USSR』のような 国家宣伝グラフ雑誌制作を請われ、その準備として参謀本部内対ソ宣伝「写真・ポスター展示会」開催 以後岡田、勝野、杉原「東方社」設立準備 (資金・人材集め) 月刊写真画報『東亜建設』発行『東亜建設』企画計画に従事→『FRONT』発行 多川精一 『戦争のグラフィズム』平凡社 2000年
	ドイツ軍、イギリス本土爆撃開始		

.9	日本軍北部仏印進駐	日独伊三国軍事同盟締結		川崎 賢子 原田 健一『岡田桑三 映像の世紀』平凡社 2002年
.10	大政翼賛会発足			井上祐子編『アジア・太平洋戦争 東方社が写した日本と大東亜共栄圏』井上祐子 『戦時グラフ雑誌の宣伝戦』青弓社 2009
.12	朝鮮総督府創氏改名制度導入			早大学園誌『新鐘』1882年 寄稿朴徳種 早大朝鮮留学生会会長五来送別辞 一母国独立・鮮内一体・創氏改名反対運動の檄
41.3 (昭16)	アメリカ、武器貸与法成立		.3 東方社設立 勝野社名命名 Восток (ヴォストーク・人類初の有人宇宙飛行船 ガガーリン)	
	国防保安法成立		長女明子 3月13日誕生 (土居明夫命名) 中田光男 8課採用 リュシコフ担当	
.4	日ソ中立条約調印			4.10 九段事務所プロジェクトー参謀本部付属 「対ソ宣伝研究機関」ノ機構にツイテ対ソ宣伝本部要項作成
	日米交渉開始			
.5	アメリカ国家非常事態宣言			
.6	独ソ戦争開始			
7.2	御前会議「南進・情勢推移による北方問題解決」	関東軍特種演習		
	英ソ同盟			
.7	第3次近衛内閣成立			
.8	大西洋憲章		「独ソ戦争と知識人の表情」・100人アンケート『文芸』8月号	加藤哲郎『情報戦と現代史 日本国憲法へのもうひとつの道』花伝社 2007
.10.15	尾崎秀実逮捕.10.18	ゾルゲ、クラウゼン、ブケリッチ逮捕		加藤哲郎『ゾルゲ事件 覆された神話』平凡社 2014 ゴードン・W・ブランゲ 千早正隆訳『ゾルゲ・東京を狙え』原書房 1985 ロバート・ワイトマン 西木正明訳『ゾルゲ 引き裂かれたスパイ』新潮社 1996
	御前会議の南進決定日 (ソ戦静謐情報蒐集)			
.10.16	近衛内閣辞職			
	東条英機内閣成立			
	日本軍南部仏印進駐			
	アメリカ、対日石油輸出禁止			
	ドイツ軍モスクワ総攻撃			
12.3	対ソ戦作戦計画ー対ソ戦防止、満州国境紛争局地に防止			
12.8	日本軍真珠湾攻撃 対米英宣戦布告			
	ドイツ・イタリア、アメリカに宣戦			
	日本軍 グアム、香港、ウエーク島、占領			
42.1 (昭17)	連合国 26カ国共同宣言		雑誌「カヴカズ旅行記」『月刊ロシヤ』9月号	
	大本営政府連絡会議 戦争指導大綱決定 独ソ和平斡旋はせず			東方社：2月『海軍号』・『FLONT』 発刊以降昭和19年まで9冊制作
	マニラ、ラバウルラクアランプール、シンガポール、			多川精一編『FRONT』復刻版 解説 1989
	バレンバン、バタビア、ラングーン、バターン半島 マンダレー占領、			井上祐子編 『アジア・太平洋戦争 東方社が写した日本と大東亜共栄圏』
	米、日系人強制収容命令			平和博物館を創る会編 『紙の戦争・伝単ー謀略宣伝ビラは語る』1990 土屋礼子『対日宣伝ビラが語る太平洋戦争』吉川弘文館 2011
.5	英ソ同盟締結			
	英ソ相互援助協定			
.6	米ソ武器貸与協定			
	ミッドウエー海戦 敗北			
.7	ガナルカナル島上陸 米軍と闘う			高谷覚蔵ハルピン特務機関へ移動
.8~	独ソ、スターリングラード攻防戦			
12	ガナルカナル島敗北撤退			
43.2 (昭18)	ドイツ軍スターリングラード敗北			
.3	大本営「対ソ作戦計画」方針ー対ソ戦防止、太平洋戦完遂を図る			3月 岡田桑三、杉原二郎、勝野東方社より去る。
.6	コミンテルン解散			3月より対ソ戦宣伝準備取組む 要項・ビラ、放送文案作成 (3月6日~7月30日) 8月 リュシコフとソ満国境視察 (朝鮮一巡ー案東ーハルピンー牡丹江ー図們前線視察ー板垣征四郎関東軍首脳等と会談)
.9	イタリア降伏			
	御前会議「今後執ルべき戦争指導の大綱」絶対国防圏を設定決定			10月15日 第8課解体

日本軍、ニューギニア、サラモアから撤退

.11 テヘラン会談ーソ連ドイツ降伏後対日参戦示唆 11 月 勝野・リュシコフとともに駿河台分室に移動 11 月 参謀本部対敵謀略宣伝本部ー文化学園接收し参謀本部駿河台技術研究通称駿河台分室設立
九段事務所・ソヴィエト研究所 淡路町事務所を移転放送部と合同。勝野企画部に所属

米林富男 手記『夜明け前』駿河台分室敵対放送傍受従事

44 .2 関東軍、南方抽出開始
.7 東条内閣辞職、小磯国昭内閣成立
45.2 ヤルタ会議ーソ連対日参戦密約

.3 東京大空襲 大阪、名古屋、神戸 3 月 勝野参謀本部辞職 木曾へ疎開活動 米林富男 (駿河台分室)、関口存男 (ドイツ語)、
桐島龍太郎 (『大陸新報』) 他同行 3 月 10 日「東方社」東京大空襲被災
日光書院出版・印刷会社を疎開、戦後再建計画、木曾産業学校設立準備

.4 沖縄本島上陸 5 月参謀本部ー敵軍本土上陸に備え「左翼分子を満州へ追放」計画
鈴木貫太郎内閣成立 池田徳真『日の丸アワー』対米謀略放送 昭和 54 年 中公新書
ソ連中立条約不延長通告 池田徳真『プロパガンダ戦史』昭和 56 年中公新書
ルーズベルト死去、トルーマン大統領就任ムソリーニ処刑、ヒトラー自殺 池田徳真原著『Bunka camp Story/Secret War』和訳名倉有一・和子

5 ドイツ無条件降伏 池田徳真原著『駿河台分室物語』日本陸軍の秘密戦 [資料編]名倉有一編
ソ連へ近衛文麿特使派遣工作、ソ連拒否 堀 栄三『大本营参謀の情報戦・情報なき国家の悲劇』文藝春秋 1989
ポツダム宣言提示 日本黙秘 伊藤 隆『日本の内と外』中央公論社 2001

8.6 広島 8.長崎原爆投下 9.ソ連満州侵攻 7 月 27 リュシコフ満州へ 加藤哲郎『情報線と現代史 日本国憲法へのもうひとつの道』花伝社 2007
.14 ポツダム宣言受諾 半藤一利『昭和史』平凡社 2004
.15 日本無条件降伏宣言・天皇玉音放送 半藤一利『世界史のなかの昭和史』2018
半藤一利『ソ連が満州に侵攻した夏』文藝春秋 1999

8 月.18 秋草俊少将 (ハルピン特務機関長) 連行
.19 ソ連軍用機でジャリコーヴォに連行秦彦三郎総参謀長、宮川船夫 (ハルピン総領事)
瀬島龍三 (作戦参謀) 野原博起 (情報参謀)、大前正 (政務参謀) 富田武『日ソ戦争 1945 年 8 月 棄てられた兵士と居留民』みすず書房 2020

9.2 ミズーリー艦上降伏文書調印 20 リュシコフ大連特務機関により処分 (殺害) 竹岡豊「私がリュシコフを撃った」『文藝春秋』昭和 54 年 8 月号
『週刊朝日』1979 年月 20 日号「スターリン暗殺計画」の主人公 リュシコフ大将の最後」
中田光男寄稿『リュシコフ大将レクイエム』2001「勝野金政生誕百年シンポジウム」記念誌

46.4 「民主同盟」発起草案作成、木曾産業学校開校 校長森本厚吉ー43.7 ストライキにより休校再建ならず 実習工場を木材会社に以後自営

‘72. 『藤村文学・人と風土』木耳社 ‘73 『歴史と人物』中央公論社 11 月号 伊藤隆教授インタビュー「国際共産主義の巨星たち」

‘75 隔月連載 791 月号「片山潜とともに」3 月号「ラーゲリを逃れて」‘74 5 月号 {参謀本部のなかで}

‘77 『自由民主』連載『ツンドラ地帯-スターリン時代のラーゲリ 4 年間の体験』3 月号、4 月号、5 月号、6 月号、7 月号、8 月号、9 月号

‘80 『凍土地帯』ースターリン粛清下での強制収容所体験記 吾妻書房

‘84 遺稿『白海に怒号する』 ‘82 遺稿『今日の妻籠』

‘94 1.13 死去 遺言「インターナショナル ヒューマニズムよ 永遠なれ」

：没後 名誉回復への道のり 1994.2 加藤哲郎教授の問い合わせから父の検証・資料提供に携わる。加藤教授との共同研究者ー藤井一行教授、モスクワ在住粛清遺児・ミハイル・スドー教授の成果

1989 年 1 月 16 日付ソ連最高会議幹部会令第 1 条適応により名誉回復

1996 年ロシア連邦最高検察庁総軍検事局より名誉回復証明書受理 遺稿「白海に怒号する」ーカナール・アルメの声 発見

1997.年 7 稲田明子寄稿「67 年目に名誉回復した父」『まほろば』7 信州の教育と自治研究所

1998 年.6 ロシヤへ 加藤・藤井教授とともにスドー教授の案内で KGB 公文書館の父のファイル閲覧。白海ラーゲル跡を訪ねる (元朝日新聞松井覚進夫妻、弟と共に)

2000 年稲田明子寄稿「父勝野金政の名誉回復-旧ソ連 KGB 文書館を訪れて-『早稲田学報』5

2001 年.12 「勝野金政生誕 100 年シンポジウム」開催 於早稲田大学

2002 年稲田明子寄稿「井上房一郎翁と父・勝野金政その両輪の光跡」『よろこばしき知識』第 248 号 2002 第 248 号

20014 年.4 「勝野金政没後 30 年記念」於 ソルジェニーツイン記念亡命外国人センター 『資料展示と講演』加藤哲郎教授、藤井一行教授 稲田明子、山本武利教授 友部保子氏とともに参加
モスクワ放送 「ロシヤの声」ー「モスクワでひらかれた日本のソルジェニーツイン・勝野金政展」

2015.8 ロシヤ国立グラーグ歴史博物館へ勝野金政 KGB 保存資料寄贈 勝野金政コーナー展示

2017.11 『アリーナ』20 号 特集ソヴィエトの世紀 IV藤井一行とソ連研究 寄稿『父・勝野金政と藤井一行先生』